

せせらぎ通信

2017. 1. 30 発行

新年あけましておめでとうございます。1月はどんなことがあったのでしょうか。

1年生は百人一首で盛り上がりました。

2017年一発目のイベントは百人一首大会でした。ご存知の方も多いと思いますが、百人一首とは、700年以上も前に100の歌人の和歌を集めたものです。この歌集を使った「かるた」は、正月の風物詩として日本人に長く親しまれています。

今回の1年生の大会では、各クラス5人程度のチームを作り、他クラスのチームと対戦しました。体育館はとても寒かったですが、勝負が始まるとみんな真剣な表情で札を探し、札が取れた時には喜びの声をあげて盛り上がりました。自分の目の前で札を取られた時は悔しかったですが、上の句が読まれた瞬間に札を取ることができた時の喜びは格別でした。和歌を詠んでくれたのは、国語科の古屋先生や糸日谷先生でした。抑揚をつけた独特の詠み方をしてくれて、雰囲気がよく出ていました。途中からは希望した生徒も挑戦しました。詠みにくそうな和歌もありましたが、みんなですらに盛り上がったように思います。



何人かに百人一首をやった感想を聞いてみると「枚数を多く取れてよかった」「札を探すのが大変だった」「話したことのないクラスの人と対戦して緊張した」などと言っていました。第二回の大会が予定されているので、さらに頑張りたいと思います。(関根・村山・脇坂)

3年生は、いよいよ大学受験シーズン突入です。

受験生にとっては勝負の時期がやってまいりました。キャリア支援グループの安田先生に話を聞きました。

—受験生の様子はどうですか？

「第一志望合格」を実現させるために、みな一生懸命勉強しています。数年前に比べ、学校内で勉強する姿が多く見られるようになりました。自習室ではいつも誰かが勉強しています。

—学校側も応援したくなりますね？

「受験するなら塾や予備校」という考えが多い中で、自力で勉強しようとする生徒の力になりたいと、学校側では若手とベテランの混合有志チームで、補習・模擬受験・出願相談などをサポートしています。生徒が頑張り、その成果が少しでも出て喜んでいられる様子を見ると、こちらとてもやりがいを感じます。

—最後に受験生へメッセージを

今、大変さを感じていると思います。しかし、「大変」とは「大きく変わる」ことです。君たちのやっていることはすでに胸を張っていいことです。やるだけやって、後は答案用紙にその成果を発揮してください。



磯子職員コラムリレー 第9回 堀口先生(社会科)

「ラジオのススメ」

みなさんラジオを聞いたことありますか？昭和30年代にテレビが登場してくるまでは、ラジオがメディアの中心でした。私が高校生の頃(昭和40~50年代)、若者の多くはラジオの深夜放送を聞きながら、受験勉強をしたものです。私も一時期ラジオ離れをしてしまいましたが、最近その魅力を再発見し、ラジオにはまっています。もちろん、ラジオは音と声しか聞こえませんが、その落ち着いた音で、丁寧で分かりやすい放送が多いです。いろいろな知識や情報もテレビに負けないくらい得ることができます。テレビで大活躍している人たちも、ラジオにこだわりをもち、ラジオを活動の場としています。昨年亡くなった永六輔をはじめ、久米宏、爆笑問題、伊集院光など…。高校生の君たちもぜひラジオを聞いてみてください。新しい世界がひらけるかも…。

